

普通科数学22班

避難所における収容人数

班員 浜田 雄斗
高橋 優輔

甲斐 響
嘉藤 圭悟

指導者 寺崎先生 濱田先生
前谷 昂星

研究の動機

災害などがあり一時的に避難する事があった時に避難先で1人が生活するためにどれだけのスペースが必要か、またスペースを取れたとして、その避難先にどれだけの人が入れるかや、その避難先そのものがどれだけ快適に出来るかどうかを知りたくなったから。

研究方法

まず、人一人当たりの生活に使うスペースを自分たちの意見や、ネット上の物を参考にして計算して、その後、近くの体育館などの面積を求めてその場所に入れる何人の人が避難出来るかどうかを求める。

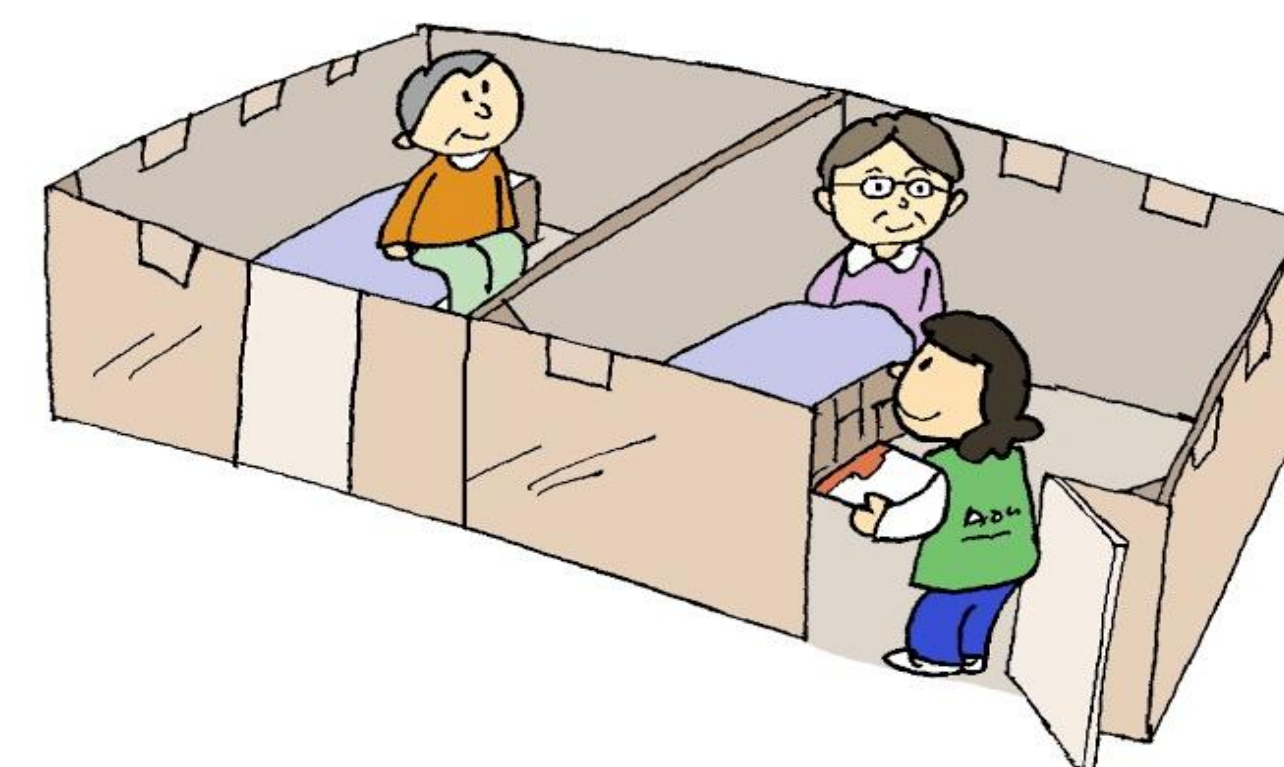


必要な道具

電卓
各避難所の設計図
メジャー
生活必需品

仮説

人1人の生活出来るスペースを敷き詰めたらそこに入る人数は多くなるのは間違いないがそのスペースを使う時の通路などを考慮するとかなりスペースが狭くなってしまうと
思われる。



研究計画

最初に避難先の設計図などを元に面積を求める。その際に生活に必要なものなども含めて求める。その後まずは延岡高校の体育館での避難可能人数を求め、そのあとは延岡の他の避難所や、他の市町村でも求める。

4～5月	1人あたりのスペースを求める。
6～7月	延岡高校体育館の避難可能人数を求める。
夏休み	他の避難所や他の市町村の場所を調べる。
9～10月	調べた場所の避難可能人数をもとめ。
11～12月	ポスターを作成する。

参考文献

なし